

## 若手研究者コラムリレー

### 木村 華織 (きむら かおり)



#### プロフィール

東海学園大学スポーツ健康科学部 講師  
日本体育学会の専門領域: 体育史

神奈川県生まれ  
2003年 中京大学体育学部卒業  
大学卒業後4年間、神奈川県内の高等学校にて非常勤講師(保健体育)  
2007年 中京大学大学院体育学研究科入学  
2012年 同研究科博士後期課程満期退学、2012年より現職  
専門競技は陸上競技(七種競技)、日本インカレ2位、日本選手権5位

E-mail: k-kimura@tokaigakuen-u.ac.jp



筆者(前列中央)とゼミ生たち

#### わたしの研究

##### 歴史を通して未来のスポーツや社会について考える!

現在に繋がる私の問題意識の芽生は、大学時代の競技生活にあります。「なぜ日本には、結婚後や出産後も競技を続ける女性選手が少ないのだろう」、そんな疑問を選手活動を続ける中で感じていました。大学卒業後、しばらく時間はあきましたが、27歳になり改めてこの疑問に向き合おうと大学院に進学しました。

修士論文では、1964年以降に活躍した23人のオリンピック選手に聞き取り調査を行い、競技環境や選手の意識について検討しました。修士論文執筆後、「今の環境を変えていくためにはどうしたら良いのか。選手やその家族が多様な選択肢の中から自らの人生を選択できるようにするにはどうしたら良いのか・・・」、という次なる疑問がわいてきました。そんなとき、指導教員から歴史をみるよう助言を受けました。正直、はじめは過去を知る歴史研究が私の問題意識にどう結びつくのか理解できずにいました。しかし、歴史史料に向き合う日々の中で、歴史研究は未来を創造するための学問でもあることに気がつきました。

現在は、女性スポーツ黎明期とされる1920-30年代を中心に、女子水泳が普及されていく過程を組織化という観点から検討しています。誰が何を思い、考え、何と闘い、今に繋がる道を拓いたのか。それはどのようなダイナミクスの中で展開されていったのか。過去と現在を行ったり来たりしながら、スポーツの未来やスポーツを通じて創造できる社会について考えています。

#### わたしの渾身の論文・書籍・記事



木村華織(2015)日本の女性スポーツ黎明期における女子水泳の組織化—日本水上競技連盟と日本女子水上競技連盟の組織統一に着目して—、スポーツとジェンダー研究 第13巻, pp.39-55.

木村華織(2016)女性アスリートにみるキャリア継続とライフコース選択、石堂典秀・大友昌子・木村華織・来田享子編著「知の饗宴としてのオリンピック」, pp.149-174, エイデル研究所.

#### (なんでも帳)

◆オリンピック教育にも力を注いでいます!

オリンピックに出てみたいという夢をもっていたこともあり、子どもの頃からオリンピックに興味がありました。大学院でオリンピックの歴史や理念(オリンピズム)を改めて学んだことで、競技への価値観が変わり、関心が一層高まりました。華やかさばかりが目立つオリンピックですが、決して良い面ばかりではありません。だからこそ、有効な教材にもなると考えています。写真は勤務校で行っているオリパラ教育の様子です。



オリパラポスター展



オリパライベント「とうがく競技祭」

◆若手の会への期待!

他領域の若手が集い、現在や未来の体育・スポーツ科学について議論することはとても面白い。ものの見方・考え方の異なる者同士が集うことによって生まれる発想があり、描ける未来がある。それが、委員会に参加してきた私の率直な感想です。複合領域からなる体育・スポーツ科学、そして体育学会だからこそできることを共に考え、形にできればと思っています。皆さま、どうぞよろしく願います。

○次回のコラムリレーは東海大学「秋吉遼子」さんです。

#### 日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村、田中)

